

## 『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」

## 第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

## 1 前文

令和8年度の共通テストでは、歴史科目は、「歴史総合」『歴史総合，日本史探究』『歴史総合，世界史探究』の2科目・1出題範囲が用意された。そのうち、「歴史総合」は第1問，第2問の二つが出題され，それぞれが『歴史総合，日本史探究』及び『歴史総合，世界史探究』との共通問題となっている。今年度は、「歴史総合」の第1問が『歴史総合，日本史探究』の，第2問が『歴史総合，世界史探究』の，それぞれ第1問となった。以下、「歴史総合」の試験概況を示し，前文とする。

受験者数：4,477名，平均点：24.98点（100点換算：49.96点）

なお，評価に当たっては，15ページに記載の8項目の観点により，総合的に検討を行った。

## 2 内容・範囲

## (1) 評価の観点

設問形式	年度・出題数	令和8年度	
		出題数	( 出題率 )
主に知識・技能を評価するもの		10	( 62.5 % )
主に思考・判断を評価するもの		6	( 37.5 % )
合 計		16	( 100.0 % )
(うち概念的理解)		4	( 25.0 % )

## (2) 分野別の出題数・出題率

分野	年度・出題数	令和8年度	
		出題数	( 出題率 )
政治史		3	( 18.8 % )
社会経済史		12	( 75.0 % )
文化史		1	( 6.3 % )
複数分野に関わる		0	( 0.0 % )
合 計		16	( 100.0 % )

\*知識・技能を評価する問題と思考・判断を評価する問題の分類は，当外部評価分科会の判断による。

## (3) 地域別の出題数・出題率

地域	年度・出題数	令和8年度	
		出題数	( 出題率 )
東アジア（日本を含む）		6	( 37.5 % )
その他アジア		1	( 6.3 % )
西アジア・アフリカ		0	( 0.0 % )
西欧・北米		2	( 12.5 % )
東欧・ロシア		1	( 6.3 % )
その他地域		0	( 0.0 % )
複数地域に関わる		6	( 37.5 % )
合 計		16	( 100.0 % )

## (4) テーマ別の出題数・出題率

テーマ	年度・出題数	令和8年度	
		出題数	( 出題率 )
近代化		6	( 37.5 % )
大衆化と国際社会の変容		2	( 12.5 % )
グローバル化		4	( 25.0 % )
その他テーマ		0	( 0.0 % )
複数テーマに関わる		4	( 25.0 % )
合 計		16	( 100.0 % )

## 第1問 「災害の歴史」に着目したまとめの活動について

問1 災害としての疫病，特にマラリアをめぐるモノ・人・病原体の移動に関するパネルについて，正しいものの組合せを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。パネルに示されたヨーロッパ，南アメリカ，アフリカの三つの地域間のモノ・人・病原体の移動に関する説明を丁寧に読み解いた上で，歴史の知識を活用し，大西洋三角貿易やアフリカ分割などに関する概念的な理解を問う良問。

問2 19世紀以降のイギリス、日本、アメリカ合衆国のマラリア研究について考察した内容に関する表中の空欄に入る語句と文とについて、正しい組合せを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。3国とそれぞれの研究対象とした地域との関係性に着目し、マラリア撲滅研究の背景には勢力圏や植民地を維持する目的もあったという帝国主義に関する概念的な理解を問う良問。

問3 (1) インドとエチオピアの飢饉に関して、パネルで扱った時期に起こった出来事について述べた二つの文の正誤について、正しい組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。「非暴力・不服従」からガンディーを想起した上で、第一次世界大戦期以降であることを判断する必要がある。

(2) パネルを比較した結果をまとめた二つのメモの正誤について述べた文として、最も適当なものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。メモ2の内容は歴史的事象相互の関連を捉えているかを問う文であるが、メモ1の内容は地図やグラフの読み取りの技能にとどまっている。メモ1を資料の内容と歴史的知識を組み合わせることで、良問となった可能性がある。

問4 20世紀後半のヨーロッパを事例とした災害と環境汚染について調べたレポート中の空欄に入る語句と文との組合せについて、正しいものを選択する問題。知識・技能を問う問題。地図から読み取った情報を基に、20世紀後半のヨーロッパの政治体制に関する知識と関連付けて正答に至る。地図の使い方に工夫がみられる。

問5 近代日本の水害と森林保全について調べたレポートから読み取れる事柄やその背景に関して、最も適当な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。開発と保全に関して、歴史用語や年代を用いずに問うよう、選択肢が工夫されている。

問6 関東大震災への諸外国の復興支援に関して、ブラジル、中華民国、アメリカ合衆国からの支援額のグラフから読み取れる事柄と当時の状況の組合せについて、最も適当なものを選択する問題。知識・技能を問う問題。グラフの丁寧な読み取りが求められる。

問7 被災地での歴史資料の保全活動に関する表の空欄に入る語句と、読み取れる事柄との組合せについて、最も適当なものを選択する問題。知識・技能を問う問題。

## 第2問 「近現代における都市の変容」という主題について

問1 パリの都市改造について、19世紀前半の集合住宅の図と、19世紀後半の地区ごとの社会階層分布の図、まとめたノートから読み取れる事柄やその背景について述べた文として最も適当なものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。都市改造に伴い、社会階層による垂直的な住み分けが地域的な住み分けへと移行したことについての理解を、住宅の図や分布図などの資料と関連付けて考察させる、概念的な理解を問う良問。

問2 問1で用いたノートに登場するフランス皇帝の在位中に起こった出来事について述べた二つの文の正誤について、正しい組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。フランス皇帝がナポレオン3世であることを特定した上で、積極的な対外政策の具体例として長州藩への砲撃を理解しているかを求める問題であった。大問のテーマである「近現代における都市の変容」との関連がやや分かりにくい。

問3 江戸・東京における都市構造の変化に関するパネル内の文章中の下線部について、誤っているものを選択する問題。知識・技能を問う問題。日露戦争の時期判断で正答に至る問題になったのが惜まれる。「海運」「煉瓦街」「鹿嶋館」「文化住宅」などを手掛かりに、江戸・東京の都市構造の変容を問う問題にすることで良問となり得た。

- 問4 公定歩合と東京都の住宅着工戸数のグラフから読み取れる事柄と背景とについて、最も適当なものを選ぶ問題。知識・技能を問う問題。
- 問5 植民地化されたアジアの都市について、最も適当な文を選択する問題。知識・技能を問う問題。
- 問6 1930年代半ばの京城（現ソウル）中心部の変容について、地図と説明文から読み取れる内容として正しいものの組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。地図を丁寧に読み取った上で、植民地統治に関する概念的な理解に結び付ける力を問う良問。
- 問7 第二次世界大戦後の香港の経済発展に関するノートの中欄に入る二つの語句について、正しいものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。中欄「イ」は、ノート全体を読んだ上で「労働力の流入」という視点から抽象化し、概念的な理解を求める良問。
- 問8 1880年代のサイゴン、1930年代の京城、1950年代の香港の住民構成が分かるグラフを読み取り、読み取った内容のメモの正誤について述べた文として最も適当なものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。中間全体のまとめとして位置付けられており、これまでの小問で取り上げられた文字情報が改めて統計資料として提示され、それを丁寧に読み取り考察させる良問。

### 3 分量・程度

分量は試験時間に照らして、適切であった。また、大学入学希望者の学力を測定するものとしては、適当な難易度であった。「歴史総合」2年目となり、ますます多方面からの注目が集まる中で、資料を用いて、歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察し、理解しているかを問う問題が工夫されて出題されていた。また、歴史的事実のみを問うのではなく、受験者の概念的な理解を求める良問も多く出題されていた。

今年度の出題において、特に工夫がみられるもの、また歴史総合の特徴をよく表しているものについて言及したい。まず、知識・技能を問う良問としては、**114**を挙げる。1930年代の京城中心部の地図とその説明文を読み取った上で、正誤を選択する問題であるが、地図の丁寧な読み取り技能と、「朝鮮総督府の移転」のもつ意味をつなげるには、植民地統治に関する概念的な理解が求められる。地図を用いた概念的な理解を問う良問といえる。資料として提示された京城中心部の地図は、歴史総合の授業に活用したいと高校の教員に刺激を与えてくれる問題であった。

次に、思考力・判断力・表現力等の良問をいくつか挙げる。**101**はパネル内の貿易を表す模式図の使い方に工夫がみられた。三角貿易の模式図は教科書や資料集によく目にするが、この問題では、病原体の移動の説明に用いており、さらに、複数の時代を一つの模式図に集約しているので、「病原体の移動」という事象を、大西洋三角貿易やアフリカ分割などの概念的な理解に照射して理解しているかを問う構造になっている。歴史総合の科目としての特性を踏まえている問題であった。同じように**102**も、マラリア撲滅を目指した研究の背景には勢力圏や植民地の維持・拡大という帝国主義的な時代背景があることを問うている。イギリス、日本、アメリカ合衆国と複数地域にまたがった事象を対象とし帝国主義への概念的な理解を求めており、いずれも思考力・判断力・表現力等を問う歴史総合らしい出題であった。また、**109**は、「近現代における都市の変容」に関する歴史的理解を、歴史的事件や人名を用いない選択肢を用意し、パリの19世紀前半の集合住宅の図、19世紀後半の地区ごとの社会階層分布図、調べたノートという複数の資料を用いた上で、それらを総合的に考察する思考力・判断力・表現力等を問う良問であった。この資料も、**114**と同じく授業者に刺激を与えてくれる興味深い資料であった。**116**は、1880年代のサイゴン、1930年代の京城、1950年代の香港という時代も地域も異なる三つの都市の住民構成のグラフを読み取っ

た上で、概念化して分類するという歴史総合で求められる思考力・判断力・表現力等を促す良問であった。

一方、設問において、資料の読み取り技能と歴史的知識の結び付け方に課題を感じる問題として104、107、111を挙げる。いずれも興味深い資料が出題されており、読み取りの技能を求めているのは伝わってくるが、やや改善の余地があったのではないだろうか。104はメモ1の内容が歴史的背景との関連性が低いため降雨量を読み取る技能が前提となってしまった。107はグラフからの高次の読み取りを求めているが、それと組み合わせるべき当時の状況の内容がグラフとの関連性が高くないため、関東大震災が五・四運動の前か後かの時期判断で正答に至る問題になってしまった。111は、文献資料から江戸・東京の都市構造の変化を読み取らせようとする意欲的な出題だが、文化住宅などは「和風・洋風両方の生活様式」を示す図版資料を用いても良かったのではないだろうか。

今年度の出題においては、リード文を含めた資料の丁寧な読み取り、読み取った情報と知識を照らし合わせた上での考察、時代性に対する概念的理解を含めた歴史の大きな枠組みの理解など、知識・技能及び思考力・判断力・表現力等を評価する問題がバランス良く配置されていた。また、歴史総合は必ずしも時代区分を取らないことは前提としつつも、大きな枠組みである「近代化」「国際秩序の変化や大衆化」「グローバル化」の三つのテーマからまんべんなく出題されていた。今後とも、受験者が歴史総合を学習した意味を測れるよう、良問を期待したい。

#### 4 表現・形式

歴史総合2年目となったが、昨年度に引き続き、多様な資料に基づく問題が数多く出題されていた。模式図・降雨量指数・文字資料・地図・統計資料・図像資料・パネルなど、ほとんどの資料が受験者にとって初見のものであった。受験者は、その資料を知っているかではなく、その場でリード文や資料を丁寧に読み解き、読み取った情報と知識を照らし合わせて考察することが求められている。また、今年度は、生徒の会話文ではなく、班活動でまとめたレポートやパネルをもとに出題が展開されており、無理な設定がなくなったことも良かった。

第1問では、災害をテーマにした様々な活動、考察のうち、最後に問7で「災害と歴史資料の保全」という現代的な諸課題にひきつけた問題を設定している。受験者は、被災地での歴史資料の保全活動には政府だけでなく民間団体の活動の重要性を受け取ったのではないだろうか。

第2問においても、都市をテーマとした様々な活動、考察が続くが、第1問と形式が異なり、第2問全体のまとめに該当する問題がなかった。大問全体のまとめの問題を無理に作る必要はないが、中間Aは、「近現代における都市の変容」をテーマにパリと江戸・東京に関する優れた小問があるので、両都市を比較するまとめの問題があれば、なお良かったと思われる。

#### 5 まとめ（総括的な評価）

高等学校の現場では、「歴史総合のこの問題は日本史的」「この問題は世界史の知識で解ける」などと、ことさらに日本史と世界史とに分けて考える風潮も散見される。しかし、今年度の歴史総合の問題を改めて分析してみると、第1問、第2問を通して、「歴史総合は日本史と世界史とに分けられない科目である」ということが再確認された。

日々の歴史総合の授業をどのように展開すればいいのか、これまでの世界史、日本史と何が違うのか、歴史総合固有の知識とは何かについて悩む多くの高校の教員に対し、今年度の共通テストの問題は、明確な方向性を与えてくれたのではないだろうか。つまり、現代的な諸課題を見据えつつ、「近代化」「国際秩序の変化や大衆化」「グローバル化」の三つのテーマを意識し、連関させながら

授業を構成する。コンテンツ重視ではなく、諸資料を読み取り、概念化し、分類し、考察するというコンピテンシーの育成が歴史総合では求められている、ということが共通テストからのメッセージであろう。

全国規模で実施される大学入学者を選抜するテストであり、かつマークシート方式という制約の中、資料を用いて、生徒の歴史的思考力を測る問題を出題するのは、大変な作業であろうと推察される。ご尽力頂いた作問委員の皆様にご心から感謝申し上げます。